

市町村名		北大東村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	地域の観光文化資源の担い手育成事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-エ	
担当部課名	総務課	事業実施 (予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	離島を支える多様な人材の 育成・確保 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	島の文化資源である『八丈太鼓』の魅力を発信するため、島外の文化交流イベント等に参加する演者の渡航費を補助し、観光誘客を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の 状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	7,000	7,000	5,000	2,000	3,000
	(b) 予算現額	7,000	5,503	1,417	2,068	2,500	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 1,497	▲ 3,583	68	▲ 500	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	7,000	5,503	1,417	2,068	2,500	
	B. 執行済額	4,848	4,664	364	1,719	1,886	
	うち交付金充当額	3,878	3,731	291	1,375	1,508	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	69.3%	84.8%	25.7%	83.1%	75.4%	
予算の状況の説明	不用額614千円は宿泊費の一部を主催者側が負担してくれたものによるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	文化交流イベントの開催:5回 (県外:1回・県内:1回)	目標	(5回)	(5回)	(6回)	(5回)	
		実績	5回	4回	6回	5回	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	文化交流イベントの開催を当初県外1回、県内1回、島内3回計画しており、県外イベントとして福井県で行われたOTAIKO響へ演奏出演し(1回)、県内イベントとして離島フェアへ開催期間3日間の演奏出演(1回)、村内行事として地域職員歓・送迎会、大東宮祭へ演奏出演し(計3回)、太鼓交流事業を実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値 (H26年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (R1年度)	
		目標	(1,000)	()	()	()	(1,100)
	島の観光入客数:1,100人以上	実績		954	1,027		
		目標	()	()	()	()	()
【参考指標】	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	入域観光客数については、前年度から増加した(+73人)が目標にわずかに届かなかった。 ※島の観光入客数は沖縄県地域・離島課の「離島関係資料」の公表時期の関係上、直近の数値は平成30年度(平成30年3月~平成31年2月)である。						

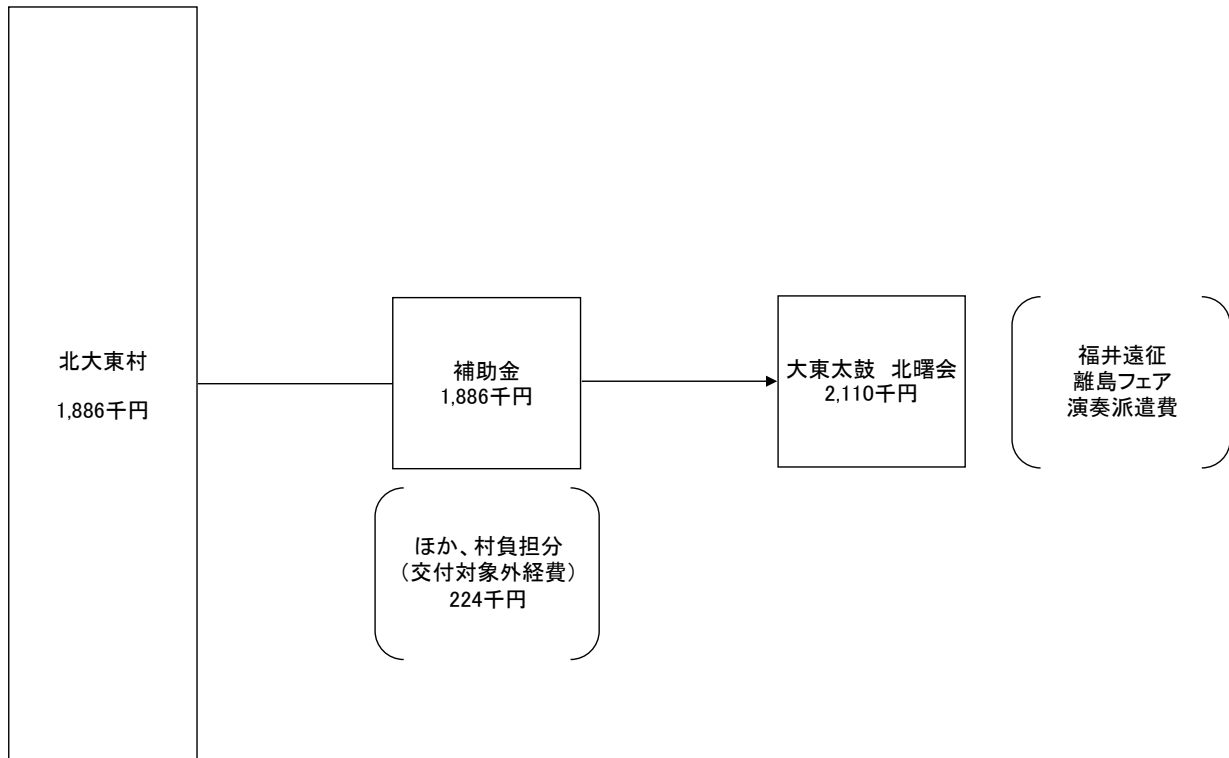
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>次年度はオリンピックイヤーであることや団体のとりまとめを行うものの世代交代があったため県外派遣時の混雑や混乱が予想されることから県外派遣は行わず、次年度以降より高度な演奏を行えるよう文化資源の継承者育成及び技術力強化に力を入れる必要がある。</p>	<p>県外への派遣は行わず、より練習を積み重ね技術力の強化を行い次年度は県内イベントのみに集中し、進化を遂げた北大東島独自の文化資源である『八丈太鼓』をより多くの方に披露し、島への観光誘客に繋げる。</p>

今後の取り組み方針

県外への派遣は行わず技術力の強化を図り、次年度は県内イベントの出演依頼があれば参加し、進化を遂げた北大東島独自の文化資源である『八丈太鼓』の魅力を発信することで更なる観光誘客に努めるとともに、より多くの方に八丈太鼓を披露できるよう今後も練習などの取り組みをととして新たな演者の育成に取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

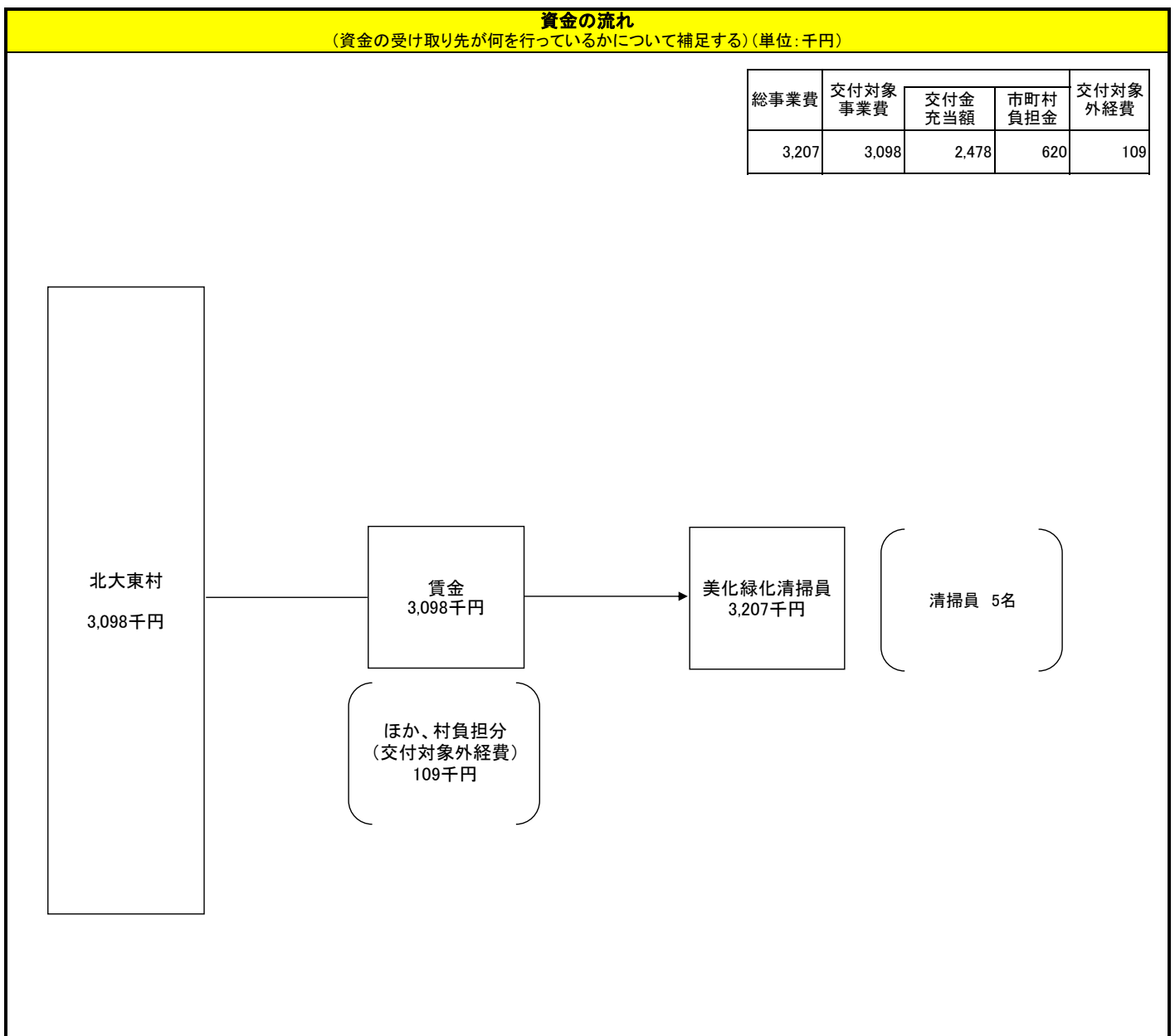
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,110	1,886	1,508	378	224



資金の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金支出先については、太鼓指導を実施しているのが1団体のみであることから、選定は妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については不用額は宿泊費の一部を主催者側が負担してくれたことにより生じた614千円であり、適正な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において、北大東村交付要綱に基づいて支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北大東村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	観光アクセス道路美化緑化推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	建設課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	観光地周辺・重要アクセス道路の修景及び美化の実施を行い、魅力的な観光地としての景観形成を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	5,000	5,000	3,500	3,000	3,000
	(b) 予算現額	4,089	2,497	2,500	3,000	3,207	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 911	▲ 2,503	▲ 1,000	0	207	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	4,089	2,497	2,500	3,000	3,207	
	B. 執行済額	3,163	2,368	1,753	2,568	3,098	
	うち交付金充当額	2,530	1,894	1,402	2,054	2,478	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	77.4%	94.8%	70.1%	85.6%	96.6%	
予算の状況の説明	作業日数増に伴い、207千円を増額した。不用額109千円は、計算時の端数処理で生じたものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	アクセス道路及び周辺道路の美化実施: 清掃員4名	目標	(美化実施: 清掃員2名)	(美化実施: 清掃員2名)	(美化実施: 清掃員4名)	(美化実施: 清掃員4名)	
		実績	美化実施: 清掃員4名	美化実施: 清掃員4名	美化実施: 清掃員5名	美化実施: 清掃員5名	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	清掃員を雇用し、アクセス道路や周回道路(10箇所:村内主要道路・村内神社・上陸公園・沖縄県最東端の碑等)を重点的に修景及び美化を実施することで、観光客等の受入体制が整備できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	魅力的な景観形成が図られたか(80%以上)を含め、観光客等を対象としたアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()
		実績		97%	93%		
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	観光アクセスに重要な道路や周回道路の修景及び美化を重点的に実施する事により、観光客等の受入体制の整備・誘客促進・観光振興が図られたかをアンケートにより検証を行い、93%の方から魅力的な景観形成が図られたとの回答が得られた。						

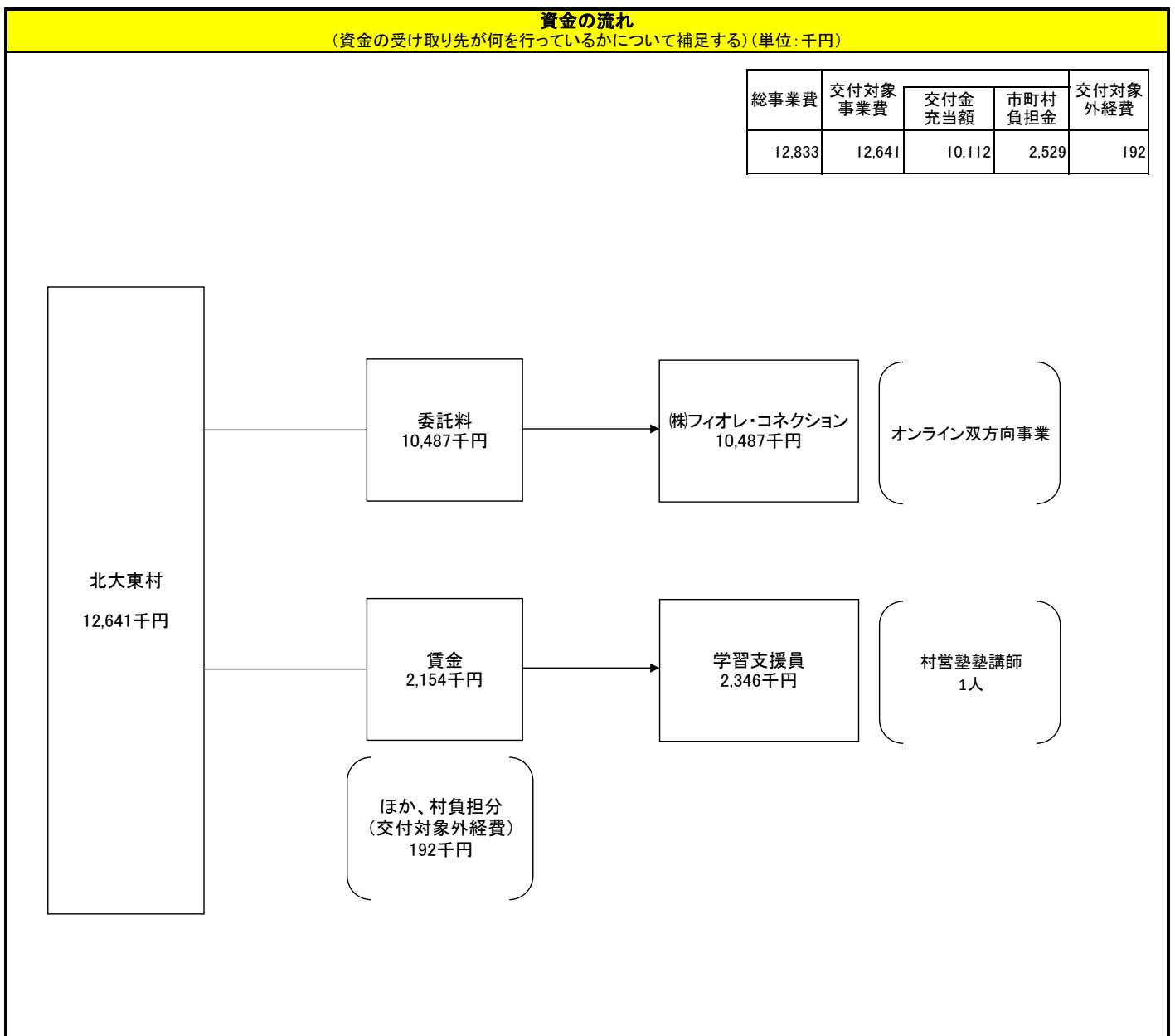
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	柔軟な契約形態を取り入れ清掃員の確保に努めたが、島内のマンパワーが不足しており清掃員の確保が十分にできないことが課題となった。	限られた清掃員でも修景及び美化を行えるように雑草等の成長を妨げる必要がある。
今後の取り組み方針		
清掃後に除草剤等を散布し雑草の成長を妨げ、観光アクセスに重要な道路や周回道路の修景及び美化を図る。		



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○賃金職員については、村内求人・賃金額と併せて適正に選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、時給計算時の端数処理の関係により不額109千円があるものの、概ね適正な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北大東村				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	2	オンライン双方向授業支援モデル事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ
担当部課名	教育委員会		事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9
事業内容	村営塾を開講し、児童生徒の個々の学力に応じた学習支援員による指導及び、ICTを活用した現役東大生によるオンライン双方向授業を実施し、児童生徒の学力向上を図る。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	12,000	12,000	12,000	14,500
	(b) 予算現額	12,000	11,500	12,000	13,500	13,500
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 500	0	▲ 1,000	▲ 1,000
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	12,000	11,500	12,000	13,500	13,500
	B. 執行済額	11,094	11,000	10,108	12,331	12,641
	うち交付金充当額	8,875	8,799	8,087	9,865	10,112
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	92.5%	95.7%	84.2%	91.3%	93.6%
予算の状況の説明	委託料の入札残1,000千円を減額した。不用額859千円は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため塾を1月休校したことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	オンライン双方向授業講師:10人	目標	(10人)	(10人)	(10人)	(10人)
		実績	10人	15人	14人	16人
オンライン双方向授業受講生徒:35人	目標	(35人)	(35人)	(35人)	(35人)	
	実績	35人	35人	32人	27人	
達成状況説明	オンライン双方向授業にて現役東大生講師の指導の下、児童・生徒の学力向上が図られた。東大生講師を必要数確保できたことにより、各講師・教科ごとの指導・評価・取組等の分野が広がり、学習方法や学習姿勢が身に付き教育環境格差の解消に繋がった。又、高校受験も全員合格という実績を得られた。講師の6人増の要因としては、当初予定していた講師の体調不良や留学等により代理で出たため増となった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		令和元年度沖縄県学力到達度調査における県と北大東村との平均正答率の差	()	(県平均以上)	(県平均以上)	(県平均以上)
	①小学校 県平均以上 ・3年生:算数・4年生:算数 ・5年生:算数、国語、理科・6年生:算数	実績	平均以下 県 64.7% 村 52.7%	平均以下 県 61.2% 村 56.0%	平均以下 県 58.0% 村 44.2%	
	令和元年度沖縄県学力到達度調査における県と北大東村との平均正答率の差	目標	()	(県平均以上)	(県平均以上)	(県平均以上)
①中学校 県平均以上 ・1年生:数学 ・2年生:数学、国語、社会、理科、英語	実績	平均以上 県 47.4% 村 55.7%	平均以上 県 50.2% 村 52.5%	平均以上 県 54.3% 村 60.2%		
進捗状況説明	オンライン双方向授業の実施により、現役東大生の指導を通して教育環境格差の解消が図られ、児童・生徒の学習に対する習慣や姿勢が身に付いてきているが、沖縄県学力到達度調査における県と北大東村との平均正答率の差は小学校の県平均には届かなかった。また、沖縄県学力到達度調査における中学校の県平均を上回っており、尚且つ高校受験において全員合格の実績を得られた。					

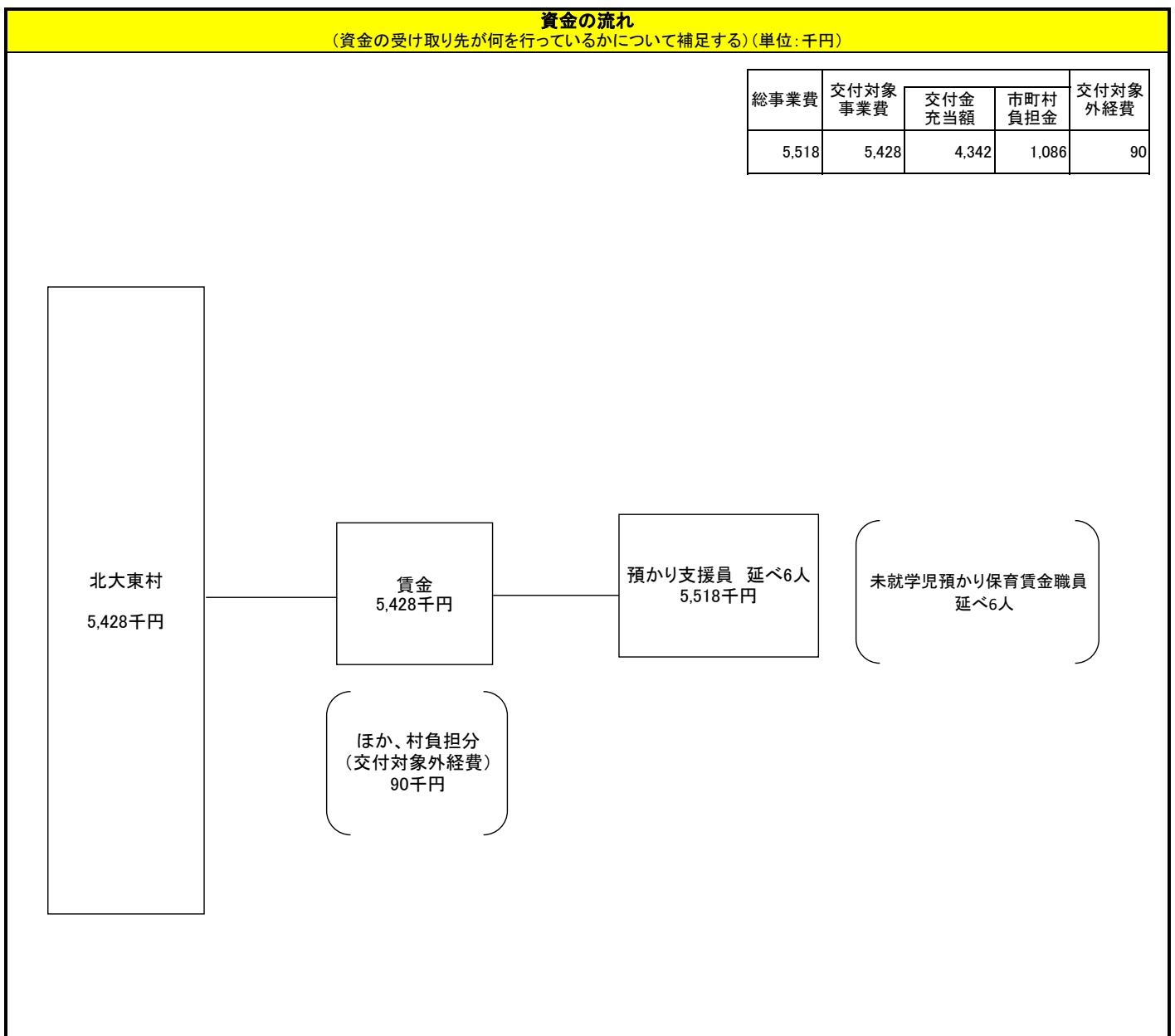
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	オンライン双方向授業による現役東大生の指導についてこれない子どもについては、村営塾の学習支援員による個別指導により引き続き対応を行っていく必要がある。	オンライン双方向授業による現役東大生の指導についてこれない子どもについては、村営塾の学習支援員による個別指導により個々の学習能力に応じた対応をしており、改善の必要はないものと考えられる。
今後の取り組み方針		
引き続きオンライン双方向授業の講師や村営塾の学習支援員と連携を図りながら、個々の学習能力に配慮したきめ細やかな対応を行うことにより、全体のレベルの底上げが行えるよう取り組んでいく。		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、オンライン授業を実施しているのは1社のみとなっており、随意契約にて契約は妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、不用額は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休校したことによる859千円であるものの、適正な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北大東村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	離島の定住促進に向けた子育て基盤構築事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	教育委員会		事業実施 (予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	未就学児や幼稚園児の預かり保育支援員を配置し、預り保育を行い、保護者の育児への負担感を軽減する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	8,000	8,000	7,000	9,500	9,500
	(b) 予算現額	8,000	7,000	7,125	7,500	6,000	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲1,000	125	▲2,000	▲3,500	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	8,000	7,000	7,125	7,500	6,000	
	B. 執行済額	6,580	6,236	6,967	7,138	5,428	
	うち交付金充当額	5,264	4,988	5,574	5,710	4,342	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	82.3%	89.1%	97.8%	95.2%	90.5%	
予算の状況の説明	子供の増加に伴い預かり保育の支援員の増員を予定していたが、一年間継続した人材の確保をすることでできず、3,500千円を減額した。 不用額572千円は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため預かり保育施設を1月休校したことによるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	預かり保育支援員配置:5名	目標	(2人)	(2人)	(4人)	(5人)	
		実績	2人	4人	延べ9人	延べ6人	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	令和元年度も継続して預かり保育の支援員を配置した事により、待機児童の解消と2歳児を含む未就学園児に対し、子育て支援が強化された。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値 (年度)
		対象となる幼児の保護者へのアンケートで、安心・安全に子供を預けることができ、育児の負担感が軽減されたと感じた割合(80%以上)を含め事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		95%	91%		
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	他に幼児を預かれる施設がないため、本事業で預かり保育事業実施により、安心・安全に子供を預けることができ、育児の負担感が軽減された。						

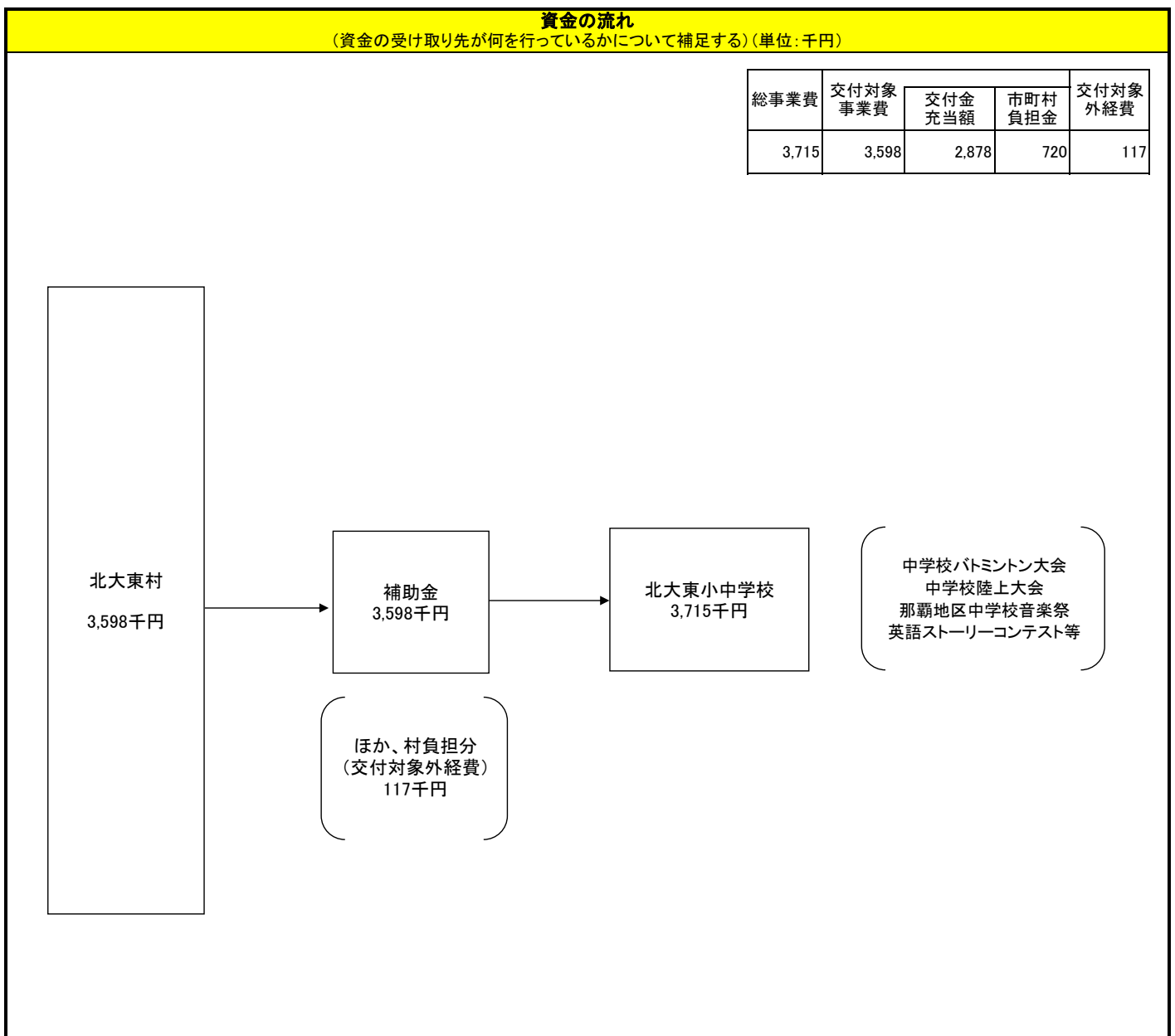
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成30年度に引き続き、保護者から預かり対象年齢の引き下げ要望があった。	2歳児以下の受入を行うためには、新たに乳児室又はほふく室、調乳室、沐浴室等を設置しないといけないが、施設規模的に設置が不可能であり、保護者からの要望に応えるためにも早急な施設の整備が望まれる。
今後の取り組み方針		
就学前の適切な教育・保育を実施するためには、認定子ども園を設置する必要があり、設置後に入園する子どもたちの環境変化を少しでも和らげるため保育教諭の人員確保や人材育成等の課題解決に取り組んでいく。		



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○嘱託職員については、村内求人・嘱託職員金額に併せて適正に選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については不用額は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休校したことによる572千円であり、適正な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北大東村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	離島の児童の交流促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9		
事業内容	児童生徒の島外・県外へのスポーツや交流学習における派遣渡航費の補助支援を行い、競争や交流の機会を増やすことで、児童生徒に広い視野を持たせる。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	3,500	3,500	2,000	3,000	3,000
		(b) 予算現額	3,044	2,100	1,875	3,000	3,715
		(c) 増減額(b-a)	▲ 456	▲ 1,400	▲ 125	0	715
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	3,044	2,100	1,875	3,000	3,715
		B. 執行済額	2,699	1,769	1,775	2,633	3,598
		うち交付金充当額	2,159	1,415	1,420	2,106	2,878
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	88.7%	84.2%	94.7%	87.8%	96.9%
予算の状況の説明	要綱改正に伴い、715千円増額した。不用額117千円は、引率者として同行した保護者の飛行機代より生じたものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	渡航助成の実施	目標	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	学習・文化交流(童話・お話・意見発表大会、中学音楽発表会、英語ストーリーコンテスト)やスポーツ大会派遣(陸上競技・バドミントン競技大会、駅伝大会)、高校体験入学・説明会による県内や県外への移動費助成を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
		派遣された児童生徒が広い視野を持てたか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより本事業を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		89%	100%		
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	交流促進事業の実施により、他校(童話・お話・意見発表大会、中学音楽発表会、英語ストーリーコンテスト)との文化交流が図られた事やスポーツ大会派遣(陸上競技・バドミントン競技大会)においては、地区大会上位実績・県大会派遣への意欲や技術・精神面での向上に繋がる成果が得られた。					

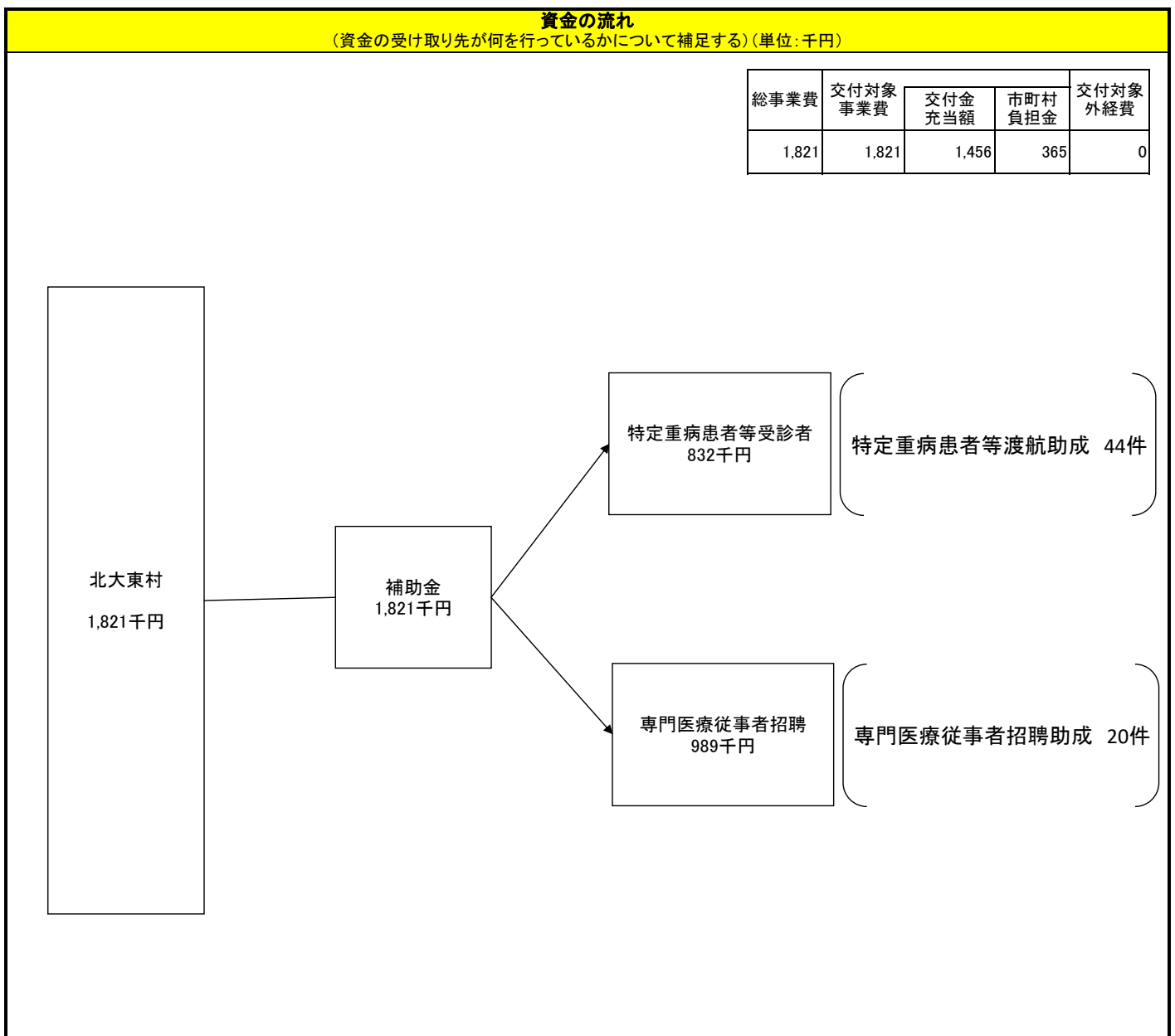
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	1件(童話・お話・意見発表大会)の大会に平成30年度より多くの派遣を行えたことで児童生徒により広い視野を持たせることができた。	離島であるため刺激を受ける機会が少ないことから他の大会等や練習試合等にも参加させてより広い視野を持たせたいと考えているが、学校の授業日数や島内イベント等が詰まっているため、利用に関する更なる検証が必要と考える。
今後の取り組み方針		
今後更に学校や教育委員会、PTA等と話し合いを持ち大会・練習試合等にも助成を拡充していけるか検討していく。		



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金支出先については、生徒指導を実施しているのは1団体のみとなっており、選定は妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については不用額は保護者分の飛行機代より生じた117千円であり、適正な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北大東村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	離島特別医療質確保推進事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上	
担当部課名	福祉衛生課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-9	
事業内容	離島の不利益を克服し、特定重病患者等の健康を守るため、島内で対応できない医療サービスを受ける際の渡航費の一部助成や、島内に招聘し健康増進を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		3,000	3,000	3,500	3,500	3,500
			3,456	3,124	3,500	3,500	2,288
			456	124	0	0	▲ 1,212
			-	-	-	-	-
		3,456	3,124	3,500	3,500	2,288	
	B. 執行済額	3,136	2,547	2,615	2,976	1,821	
	うち交付金充当額	2,508	2,037	2,092	2,381	1,456	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	90.7%	81.5%	74.7%	85.0%	79.6%	
予算の状況の説明	例年実績を元に重病患者数などを算出し予算計上したが、申請者の減等に伴い1,212千円を減額した。3月下旬精算受付分までを交付金交付の対象とし、当該期限に間に合わない精算受付分については、村の単費で対応している。令和元年度全体の支出額は2,039千円であり、執行率は89.1%である。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	特定重病患者の検診助成の実施	目標	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	専門医療従事者招聘助成の実施	目標	()	()	()	(助成の実施)	
実績					実施		
達成状況説明	事業制度の周知を図り、島内で受診対応出来ない、特定重病患者等の検診(28人/44回)に係る医療サービスを受ける際の沖縄本島への渡航移動費助成を行った。 また、専門医療従事者を招聘(5人/20回)して相談・検診(97人/128回)を行うことにより、村民の心身の健康に関する不安を解消した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	渡航費支援が必要な人への支援率:100%	目標	()	(100%)	(100%)	()	()
		実績		100%	100%		
	心身の健康に関する不安が解消されたか(80%以上)を含め、受診者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	(80%以上)	()	()
		実績			100%		
進捗状況説明	支援が必要な方へ制度説明を行い、申請のあった方全てに対して支援を行った。 ※支援率=(渡航支援した人)/(島外での診療が必要と診断された人)						

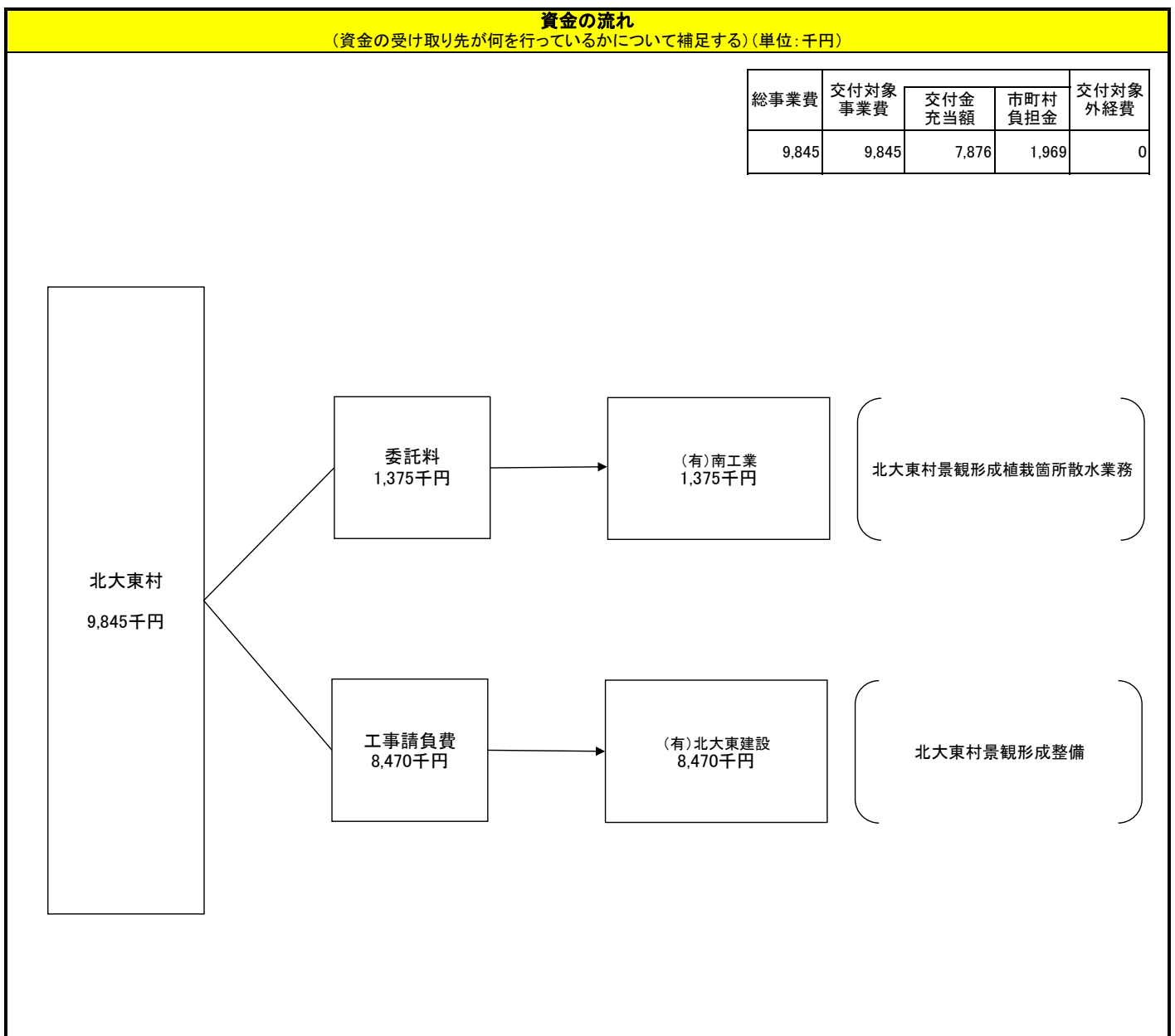
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本年度より専門医療従事者招聘助成を行い、専門医療従事者(5人/20回)の招聘助成を行い、村民の相談・検診(97人/128回)を行い、心身の健康に関する不安が解消されたかを含め、受診者へのアンケートを実施し回答してくれた全員が解消されたと回答したことから非常に効果が高かったという結論に至った。</p>	<p>他に招聘してほしい医療従事者などいればアンケート内の自由記入欄に記載するよう伝えているが、特に要望等はなかった。 本年度招聘予定であった助産師について日程調整がうまくできず招聘できなかったことから次年度以降再度調整を行う。</p>
今後の取り組み方針		
<p>次年度以降も事業を継続し島民の心身の健康に関する不安が解消していく。</p>		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受診証明書・搭乗確認書等にて選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については不用額は期間制限等により生じた467千円であり、適正な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北大東村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4	北大東村景観形成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	北大東村特有の地域性にあった景観づくりに向けて、海岸道路沿いの周辺環境に配慮した景観整備(伐採・植栽)を行い、魅力的な観光地としての景観形成を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
		(a) 当初予算額	27,000	7,100	37,600	-	10,000
	(b) 予算現額	10,260	10,100	39,692	-	10,000	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 16,740	3,000	2,092	-	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	5,000	-	
	A. 計(b+d)	10,260	10,100	39,692	5,000	10,000	
	B. 執行済額	10,260	9,504	34,692	4,730	9,845	
	うち交付金充当額	8,208	7,603	27,753	3,784	7,876	
	次年度繰越額	0	0	5,000	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	94.1%	87.4%	94.6%	98.5%	
予算の状況の説明	事業計画のとおり、海岸道路沿いの景観形成整備を実施した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	村一周海岸道路の植樹環境整備:1,000m	目標	(900m)	(700m)	(1,000m)	(300m)	
		実績	900m	700m	1,000m	300m	
	過年度実施箇所の給水	目標	()	()	()	(給水の実施)	
実績					給水の実施		
達成状況説明	マリンレジャー施設や観光ガイド施設等の観光基盤整備と合わせて、景観性が乏しい村一周道路の海岸沿いを地域性にあった植樹・環境に整備することにより観光誘客を図る。今年度は西港から北港向けへ景観形成の環境整備を行った。全長9,000m 進捗率37.22%						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	村一周海岸道路の植樹環境整備植樹工事等の完了:300m(現進捗率33.89%(全長9,000m))	目標	()	(700m)	(1,000m)	(300m)	()
		実績		700m	1,000m	300m	
	魅力的な景観形成が図られたか(80%以上)を含め、観光客等を対象としたアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	()	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績			97%	93%	
進捗状況説明	景観性が乏しい村一周道路の海岸沿いを、西港から江崎港向け(300m)に整備を行った。整備対象は全長9,000mであり、令和3年度の整備完了を目標としている。平成26年度から計3,350mを整備済みであり、進捗率については、37.22%となっている。						

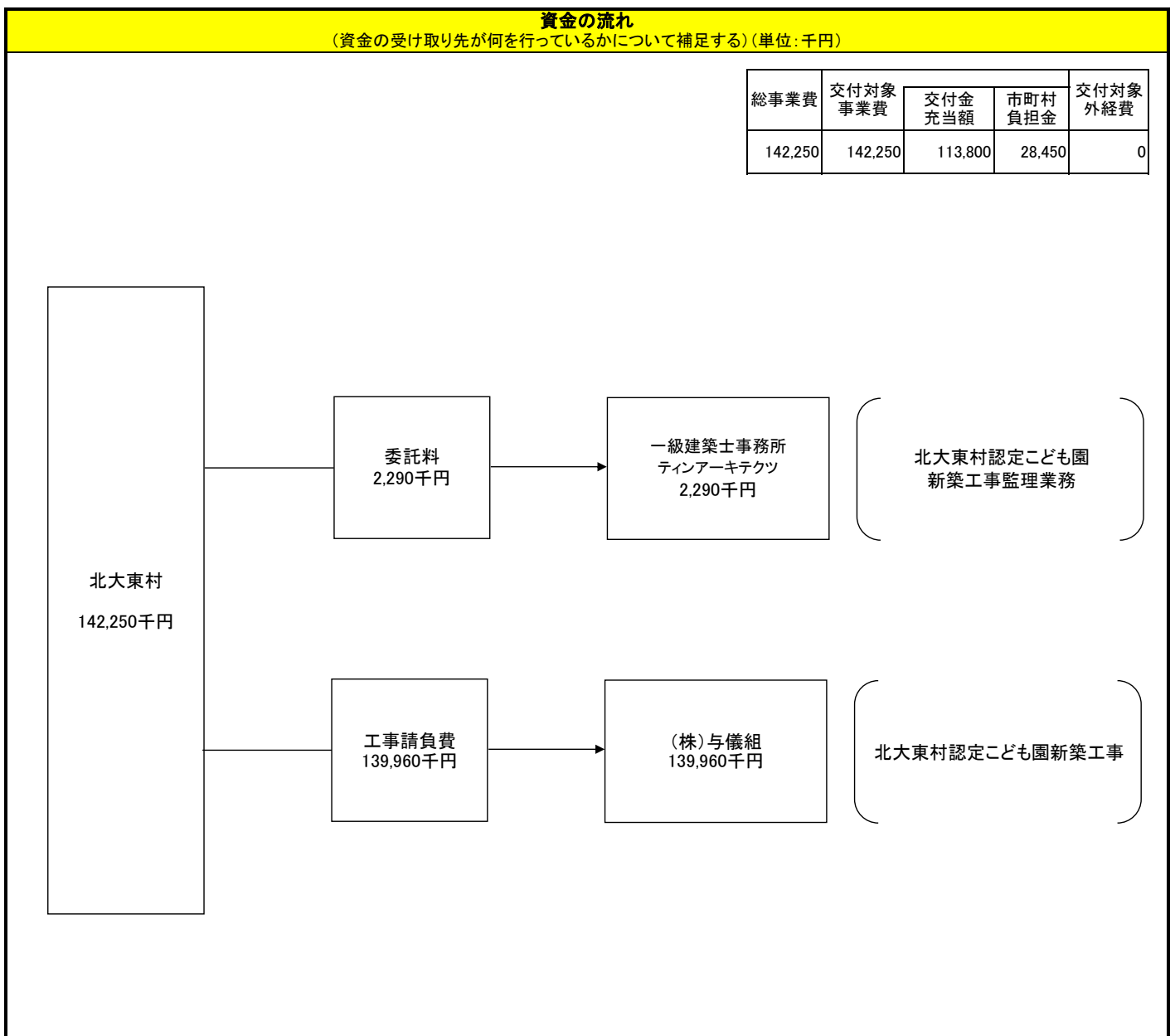
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	海岸道路に面し、島の玄関口である江崎港の入り口付近の景観が課題となった。	島の玄関口である港の入り口付近の景観形成を行うことが更なる観光誘客に必要と考える。
今後の取り組み方針		
既存の岩礁や風景などを活かしつつ、島の玄関口である港付近の植樹・景観形成整備を実施し更なる観光誘客に繋げる。		



資金の 使途の 流れ、 費用 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札により適正に選定しており、妥当であった。 ○予算規模については適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北大東村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7	北大東村認定子ども園整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	福祉衛生課	事業実施(予定)年度	平成30~令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-4		
事業内容	認定子ども園を整備する						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和3年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a)当初予算額	26,000	-	142,250		
		(b)予算現額	26,000	-	142,250		
		(c)増減額(b-a)	0	-	0	0	0
		(d)繰越額	-	10,000	-		
	A. 計(b+d)		26,000	10,000	142,250	0	0
	B. 執行済額		15,380	10,000	142,250		
	うち交付金充当額		12,304	8,000	113,800		
	次年度繰越額		10,000	0	0		
	執行率(%) (B/A)		59.2%	100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		事業計画通り、認定子ども園の整備を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	認定子ども園の施設整備	目標	(実施設計の完了)	(施設整備の一部完了)	()	()	
		実績	実施設計の完了	施設整備の一部完了			
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明		平成30年度に実施設計を完了し、令和元年度に令和元年度分の工事を完了した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)
	認定子ども園の施設整備	目標	()	(実施設計の完了)	(施設整備の一部完了)	()	()
		実績		実施設計の完了	施設整備の一部完了		
	【参考指標】(保育部分) ・待機児童0 (幼稚園部分) ・発育度が向上したか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	()	()	(0人・80%以上)
		実績					
進捗状況説明		令和2年度に施設完成予定であり、令和3年4月より施設利用開始を予定しているため令和3年度より目標を設定した。					

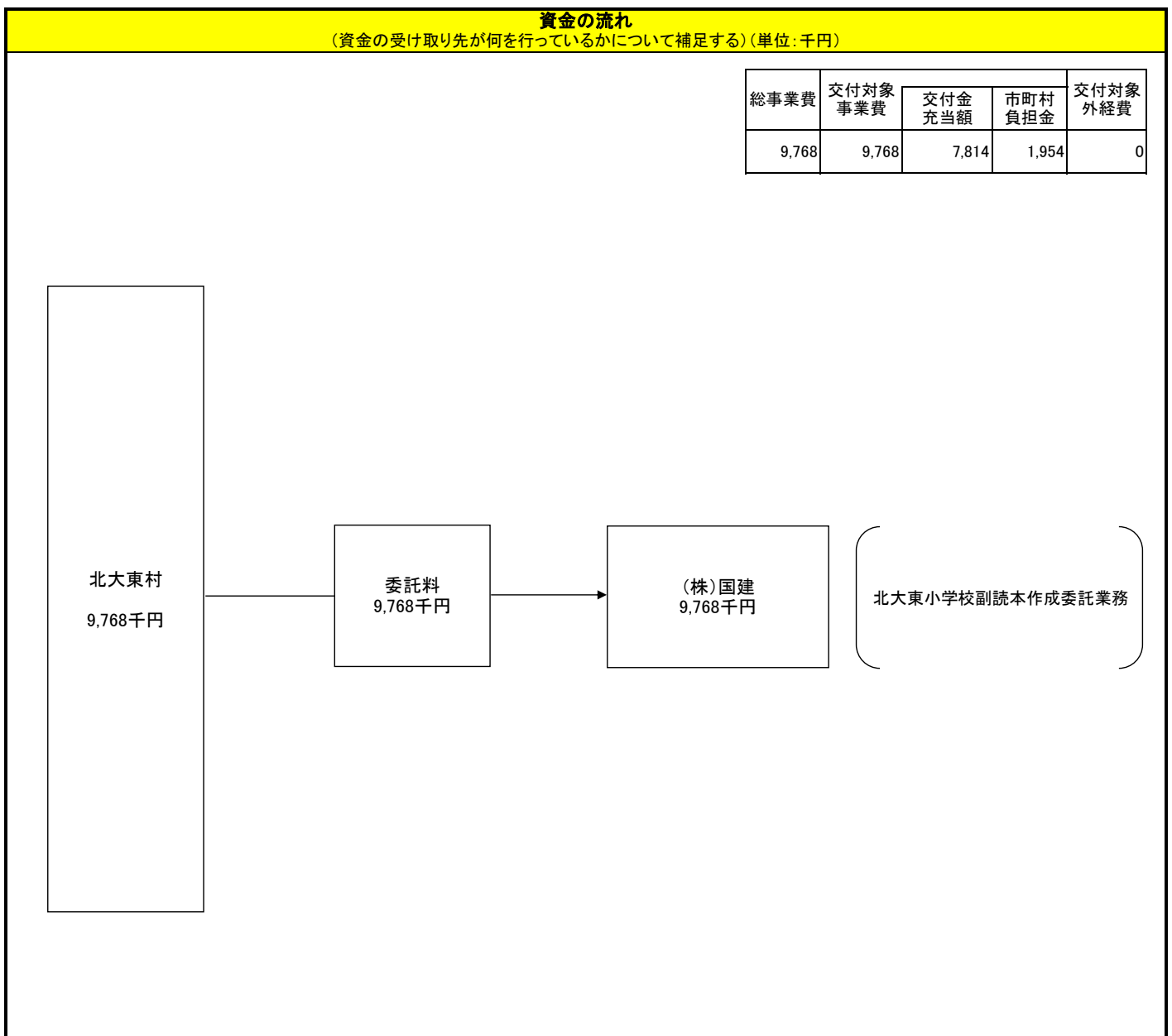
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	子ども・子育て会議を開催し令和3年度開園に備える必要がある。	会議の中で認定こども園の開園について検討し、人材確保や学校行事等の観点から本村の実情に沿った幼稚園型認定こども園で開園した方が良いのではないかと意見があった。
今後の取り組み方針		
離島での人材確保が難しいことや行事等も考慮し、本村の実情に沿った幼稚園型認定こども園の開園を検討していく。		



資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札により適正に選定しており、妥当であった。 ○予算規模については適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北大東村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8	北大東小中学校地域副読本制作事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-イ		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	令和元年～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化の担い手の育成		
事業内容	北大東島の歴史・文化をまとめた副読本を制作する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	9,768				
		(b)予算現額	9,768				
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	9,768	0	0	0	0
	B.執行済額		9,768				
	うち交付金充当額		7,814				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		事業計画通り、副読本の制作を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	北大東島の歴史・文化をまとめた副読本(小学校3,4年生、5,6年生用)の制作	目標	(制作の実施)	()	()	()	
		実績	制作の実施				
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	令和元年度に小学校3,4年生、5,6年生用の副読本を制作した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R2年度)	
	北大東島の歴史・文化をまとめた副読本(小学校3,4年生、5,6年生用)の制作	目標	()	(制作の完了)	()	()	()
		実績		制作の完了			
	【参考指標】 北大東島の歴史・文化への理解が深まったか(80%以上)を含め、児童へのアンケートにより、本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	()	()	(80%以上)
		実績					
進捗状況説明	利用開始1年目(令和2年度)の目標を以下のとおりとする。 児童に対するアンケートを実施する。 「北大東島の歴史・文化への理解が深まった」(80%以上)						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	令和元年度実施分の小学校3,4年生、5,6年生用の副読本を制作し、令和2年度より授業で使用予定である。しかし、中学生用副読本の制作が未完であるため令和2年度以降に早急に制作に着手する必要がある。	入札に関する事務手続きや入札後における委託業者との調整を行いながら、早期の副読本制作完了に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
北大東島の歴史・文化への理解が深まり文化の担い手を育成する観点から、速やかに入札に着手する。		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名入札方式により適正に選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、事業趣旨から適正な予算規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	